

## 信頼関係を育むことで 対人関係の第1歩を踏み



様々な欲求に応え、  
やすらぎと満足感…そして大きな愛で包みます

### 甘えをしっかりと受けとめます

言葉掛けをたくさん行い、『アーウー』という赤ちゃんの声に対して、抱っこしたり優しく話し掛けたりして応えていきます。しっかりと目を見つめながら話し掛け、スキンシップをとりながら身体中で赤ちゃんの甘えを受けとめてあげることで、信頼関係を築き、赤ちゃんの自発性へと繋げていきます。



### 信頼関係を築くには？

泣くことでしか自分の欲求を表現できませんが、話し掛けや抱っこ・授乳・オムツ交換などのときに、赤ちゃんは五感を通して優しさを感じています。

抱き癖など気にせず、肌と肌のふれ合いを大切にあげましょう。抱っこのときは長時間揺すらないように気を付けましょう。

いつもあたたかくほほえみ掛け、言葉を掛け、優しくふれながら授乳し、オムツを換え、赤ちゃんのペースに合わせて気持ち良く過ごせるように関わり、赤ちゃんとの信頼関係を築いていきましょう。

おうちの保育メモ



## 人生で最も大きな成長をとげる時期

0歳児は、授乳・排泄・睡眠をはじめとした世話や関わりを通して、「気持ち良い」という実感を持たせてあげることが何よりも大切な時期です。

赤ちゃんにとって特定の大人と愛情深い関わりを持つということは、心の健康や発達にとってとても大切なことです。私たちは、一人ひとりの気持ちに寄り添い、十分な安心感で包んであげ、その心地良さをエネルギーとして次の欲求へと繋げていきます。

安心できる1対1の関係の中で、信頼感・安心感・自己肯定感を育てます。



### 心地良い気持ちに

食事や排泄などへの対応は、一人ひとりの発育の差があることを十分に理解し、無理がないように行います。オムツが汚れたら優しく言葉を掛けてこまめに取り替えるなどして、気持ち良く過ごせるように配慮しています。このように、一人ひとりが心地良い気持ちを感じられるようにすることで、情緒の安定を図ります。また、6ヶ月を過ぎると情緒の表現や表情も豊かになってくるため、愛情を込めた応答的な関わりをしていきます。

### 安心できる時間をつくります

一人ひとりと目と目を合わせ、ゆったりと抱いて授乳をし、安心できる時間をつくるようにしています。

離乳はミルクから身体の発育に必要な栄養の補給への切り換えだけでなく、食生活の基盤をつくり、自立へと向かう第1歩となるので、穏やかな関わりの中で、一人ひとりに合った状態で離乳を進めます。そして、楽しい雰囲気の中でスプーンから飲むことに慣れ、無理なく離乳食へと移行していきます。



### SIDS(乳幼児突然死症候群) 予防のために

生後2~6ヶ月に多いSIDS予防のために睡眠の際は、15分ごとに様子(呼吸・顔色・布団がはだけてないか)を確認し、チェック表に記入しています。

# 1歳はひとり立ちへの出発期 自分の力で歩き出します



## 「やりたい」気持ちを尊重し 子どもたちの心の拠り所になります

### 一人ひとり、ありのままを受け入れます

自分の欲求の表現がまだまだ未熟な1歳児は、大声で泣く・拒否・嘔みつきなど、行動を通して自分の要求を表します。私たちは、子ども一人ひとりの欲求を十分に受けとめ、保育者に愛されていると実感できる生活が送れるようにしています。まだ言葉で伝えられない子どもは、保育者が毎日の生活の中で、動作や表情での欲求を汲み取り安心して生活できるようにしています。



### かんしゃくや泣き叫びは自我の芽生え

一方的に叱ったりするのはなく、じつと黙って抱きしめてあげましょう。「ダメ!」「いけません」と抑えついたり、拒否したりしているうちに、子どもは何かを表そうとする意欲を無くしてしまいます。素直に表現できなくなった子どもは、歪んだり、ひねくれた表現をするようになってしまい、自我の芽生えを摘み取ってしまうこととなります。子どもは愛情を持って抱きしめてあげると、それまで突っ張っていた力が抜け、体温や脈拍が落ち着き、かんしゃくも静まってきます。そうなる前から、ゆつくりとやさしく子どもの要求を聞いてあげましょう。そして、少しずつ叶えてあげましょう。

おうちの保育メモ



## 受動的な世界から感動の世界へ

1歳児は、今までの「全て与えられた受動的な世界」から抜け出し、自分の力で歩き出す時期です。自分の力で自分の好きな所へ移動し、色々なことに挑戦しようとする好奇心にあふれ、それが探索行動になっていきます。

私たちは、「うまくできないことはあたり前」ということを前提にして、子どもたちの「やりたい気持ち」を大切にしていきます。また、子どもが安心して自分を出せるように援助したり、環境をつくったりすることで、子どものチャレンジを応援します。



### 無理強いをせずに楽しい食事を

手指の操作などが機能的に未熟なため、食事の場でこぼしたり、手づかみをすることもあります。私たちはその意欲を大切に、上手くいったときは褒め、共に喜ぶようにしています。また、食欲や食事の好みにより偏りが現れやすい時期で、味覚・嗅覚・触覚の発達により食べものに対する好き嫌いが出てくるため、嫌いなものには強い拒否反応を示します。無理強いせずに、大人と一緒に食べることで食事の楽しさを感じさせるような関わりを大切にしています。



### 感染症にかかりやすい

乳幼児は免疫力が弱く、感染症にかかることが多くあるため、私たちは、身体の状態・きげん・食欲・元気さなど日頃の状態をしっかりと観察しています。

また、今までにかかった感染症を把握し、予防接種を啓蒙しています。

## 強い自己主張が表れる時期 自分でできたという達成感が自信と意欲に



### 心の側に寄り添って さりげなく援助していきます

#### 保育者もじっと我慢

食事・排泄・睡眠・衣服の着脱などの、自分でできないところは、優しく手を貸しながら、自分でしようとする気持ちを大切にします。子どもが自分でできそうなところは、手を出さずに見守り、自分でしようとする意欲をかき立てるようにしています。自信が持てるように、できたところは褒めて一緒に喜び合います。



おうちの保育メモ

#### 何を言っても「イヤ!」 一体どうすれば?

この時期は、「~しよう」という言い方は逆効果。

「手を洗おうね」「トイレに行こうね」と言えば、「イヤ!」となります。そこで、「白いせっけんとピンクのせっけん、どっちで洗う?」と子どもにも選択権や決定権を持たせてあげましょう。



## 大人の手を借りず何でも「自分で!」

2歳児の保育では、「探索行動と反抗」を理解し、大切に受けとめます。むやみに干渉したり、無理強いしたりすることのないようにし、一人ひとりの気持ちに寄り添って援助していきます。子どもたちが、安心できる保育者の手を借りながら、食事・排泄・衣服の着脱などの簡単な身の回りのことを自分でできるような環境を積極的につくります。

また、子どもが自分でしようとする気持ちを大切にしながら、子どもの気持ちに寄り添った保育を行い、「自分でできた」という気持ちを持たせてあげることが、子どもたちの自信と意欲へと繋がります。



### | ごっこ遊び

この時期になると、記憶しているものを思い出して再現すること(イメージ)ができるようになり、「見立てる」「つもり」「ふり」を楽しみ、ままごとなどの簡単なごっこ遊びをするようになります。またごっこ遊びの内容は単純なため、保育者が子どもの気持ちに添いながら仲間に入り、環境を整えることで、子ども同士の関わりが盛んになります。遊びの中で言葉を使うことや、言葉をかかわすことの喜びを感じていきます。



### | 行動範囲を制限しない環境設定

歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能の発達が著しく、行動範囲も広がります。また、指先機能も発達します。探求活動が盛んになり、何にでも興味を持って試そうとするこの時期は、安全への配慮を十分にを行い、子どもの活動を制限しないような環境づくりを心掛け、人やものとの関わりを広げていきます。

### | 遊びの仲立ちをします

強い自己主張がみられるこの時期は、子ども同士のぶつかり合いも多くなります。私たちは、子どもの行動には理由があることを理解し、両者の欲求を受けとめ、遊びの仲立ちをしながら他の子どもとの関わり方を知らせます。



## 3歳は自我の確立期 セルフコントロールで世界が広がります



### 遊びながら学ばせ、遊びながら育てる 友だちとのふれ合いを大事に

#### 友だちの気持ちに気付けるように

まだまだ保育者の寄り添いや手助けを受ける段階です。うまくできることよりも、進んでしようとする気持ちを大切にします。

園には自分以外の子どももおり、自分と同じように「遊びたい気持ち」を持っていて、順番や決まりはそのためにあるということに気付けるようにしています。

5歳児とのペア活動の中で、一緒に手を繋いでもらったりしながら同じ経験をすることで、喜びや次は自分でという意欲に繋がっていきます。



#### おうちの保育メモ

##### 親は心の拠り所

友だちと遊ぶ中で、感じたこと、考えたこと、ケンカやトラブルなど、子どもはそのたびに心の基地である親と共有したいと思っています。そんなときは、まずは優しく抱いてあげてください。親のひざの上や胸の中で気持ちの安定を得て、再び遊びに向かって行けるはずですよ。

また、この時期から少しずつ食事マナーを教えることが大切です。

親が手本となることで、真似しながら楽しく覚えられるようにしていきましょう。

園では、ランチルームで3・4・5歳と一緒に食事をしています。年上のお兄さん・お姉さんを見習ったり、おしゃべりをしたり、毎日楽しんで食事をしています。



## 「上手に」よりもその意欲を大事に

友だちとの遊びや、保育者の手伝いをする中で、「決まり」に従うことの楽しさを経験して学んでいく時期です。

新しい環境に徐々に慣れていけるように配慮し、個別に対応しながら次第に集団生活に慣れていくことができるようにしていきます。

また、身近な人との関わりや、友だちとの遊びを楽しませてあげるようにします。うまく遊ぶことができなくても、やりたいという気持ちを大事にし、子どもたちに接します。



### 安心して話せる関係をつくる

使える言葉が少なく、表現する力もまだ十分ではありませんが、「話したい」という気持ちは強く持っている子どもたち。そうした気持ちを十分に満たすことができるように、安心して話せる保育者との関係をつくれるよう、心掛けています。

「あのね」「先生…」という子どものつぶやきをのがさず、気持ちに寄り添うことで信頼関係を築いていきます。



### 身体を動かすことを楽しむ

運動能力は育っていますが、まだ複雑な運動は難しい時期です。

戸外で十分に身体を動かし、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむことで、運動能力を伸ばすようにしています。

- かけっこ      ■ 鬼ごっこ      ■ ボール遊び
- 三輪車に乗る   ■ 片足跳び      ■ 平均台    など

### 大人が子どものお手本に

お父さん・お母さん・保育者など身近な大人の模倣をし、ごっこ遊びに取り入れて、なりきって遊びを楽しんでいます。大人は子どもたちにとって最もお手本となり、影響を与える人物ですので、よきモデルであるよう心掛けています。

### ファンタジーの世界へ

大好きな絵本の世界に入り込み、役になりきって楽しむことができます。

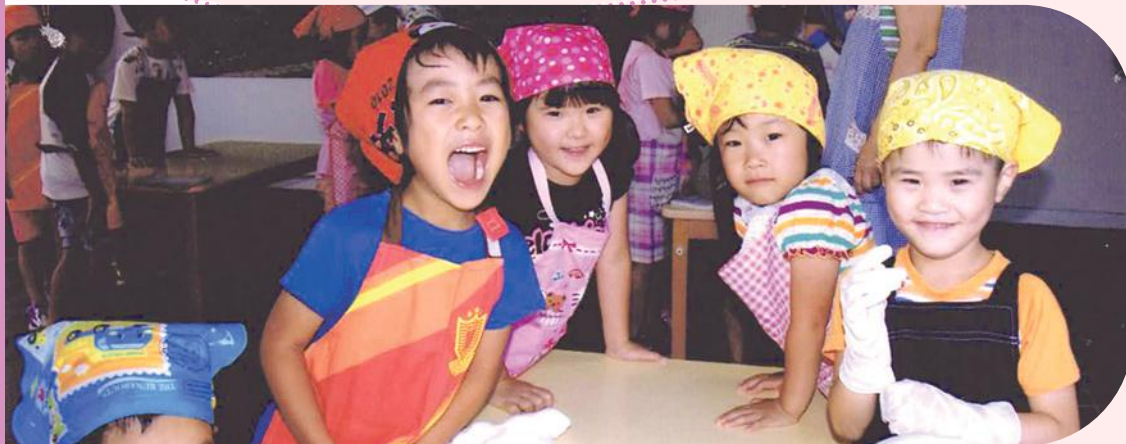
### 異年齢児との関わり

年上の友だちに可愛がられたり、お世話されたりすることで、憧れや真似をしようとする時期。たくさん関わってもらいお世話されることの心地良さを知り、次は自分でしてみようという気持ちになります。





## 基本的な人格の形成期 多様な人間関係の中で心が育ちます



### 揺れる心を成長の糧に 子どもたちの生活を温かく見守ります

#### 多様な人間関係の中で心を育む

年下の友だちや年上の友だちと接する機会を大切に、普段の生活の中でも地域のお年寄りや身近な人々とふれ合う機会を持つようになっています。子どもたちは、多様な人々といきいき遊んだり、喜んだり、譲ったり、話し掛けたりなどの関わりを通して、いたわりの心を育てています。

縦割りクラスの中で年長児をお手本として、憧れや「自分もあんな風になりたいな」という気持ちの芽生えを大切にしています。

また、以前に自分がお世話してもらい、その心地良さを知っているからこそ、少しずつ年下の友だちが気になってきて「かわいい」「お世話したい」という気持ちが芽生えてきます。

#### 多様な人間関係の中、 自発性を持たせるようなしつけを

しつけは、押しつけられて身に付くものではありません。「できたね」「ありがとう」「うれしかったよ」などの認め  
の言葉を、子どもの動作に合わせて掛けてあげましょう。親に認められたり、褒められたりすることに喜びを感じ、自らの努力で達成できたことに充実感を感じます。

また、様々な人と出会うことで学ぶことも多くあります。地域や町内の行事などに家族で積極的に参加し、そこで子どもが発見したことや楽しんだことを大切にあげましょう。

おうちの保育メモ



## 仲間を通して自分に気付く

この時期になると、関わりを持つ人が「身の回りの人」から「他人」へと広がり、子どもたちの生活は変化に富んだものになっていきます。様々な人との関わりの中で、感情が豊かになり身近な人の気持ちを察して、少しずつ自分の気持ちを抑えられたり我慢が出来るようになってきます。

また、遊びのルール、保育者との約束、園でみんなが使う「共同のもの」を大切にすることを毎日の生活の中で、しっかりと学んでいけるようになっています。



### 友だちと一緒に運動遊びを楽しむ

■鉄棒 ■平均台 ■ボール遊び(中当て) ■ケンケンパ

### 自己表現へのステップ

集団の中で、自分をなかなか表現できない子には、その子なりの参加の姿を受けとめながら、徐々に自己表現をしていけるように引き出していきます。私たちは、無理に誘って参加させるのではなく、子どもが自分から参加しようとする気持ちを持てるまで待ったり、楽しさを伝えていけるような関わりを心掛けています。自分の伝えたいことがしっかり相手に伝わる喜びを味わうことができるよう、保育者がしっかり聞いて受けとめ、朝の集まりなどでの人前で話す機会を多く用意しています。



### 友だちとのトラブル

この時期の子どもたちは、友だちとのケンカを経験しながら相手の立場を理解できるようになり、ときには自分の主張を押し通すこともあります。

そうしたケンカも成長の過程の大切なものとしてとらえています。

子どもの心の動きを十分に察知して受けとめながら、「決まり」があることで生まれる集団生活の楽しさを伝えていきます。また、社会性を育てると共に子どもの自己肯定感や、他人の心や立場を気遣う感受性を育てていきます。

## 社会的な人格の形成期

## 自己発揮することで集団生活が充実します



### 子どもの考えは、まず尊重

### 「心の中の思い」に目を向けて共感します

#### 命の大切さを学ぶ

自然の中で生きものや自然物にふれながら、動植物を命あるものとして大切に扱う必要があることを学んでいけるようになっています。

また、野菜を育て、その成長や収穫を楽しむ経験も取り入れています。小さな命には十分な注意が必要であることを飼育・栽培を通して、命の尊さ・食べもののありがたさなど体験させています。

#### おうちの保育メモ

#### 大人の手本を見て、自分で考える場面を増やしましょう

子どもは大人を見ながら育つもの。いつも子どもの側にいる大人が適切な態度と行動を見せ、思いやりの心や我慢する心を伸ばしてあげましょう。

また、暑いときには自分で服を脱ぎ、寒いときにはもう1枚着るなど、自分で判断して行動する場面を増やしてあげましょう。自分で考えて行動することで、子どもの自発性が育まれます。

#### 絵本の読み聞かせでふれ合いを

子どもの集中力・理解力・話を聞く力は、絵本とのふれ合いによって培われます。

園での読み聞かせ以外でも、親子のふれ合いなど同じ時間を共有することで心を通わせることができよう、絵本の貸し出しを行っています。

## 自分で考え、自分で行動します

5歳くらいになると、日常生活上の基本的な習慣はほとんどひとりで行えるようになります。内面的にも一段と成長し、今までのように大人が「やめようね」と言うからやめる、というように指示に従うのではなく、自分なりに考えて納得のいく理由でものごとの判断ができるようになっていきます。

子どもが考えたことはまず尊重し、一人ひとりの心の中の思いに目を向けます。また、子どもの行動に興味を示し、その取り組みに共感してあげることで、積極性・自発性を伸ばしていきます。



### 思いやりの気持ちを持つこと

縦割りクラスの中で年下の子に頼られたり、生活の仕方を教えたりすることで、年長児としての自覚を促し、思いやりを持って接することができる、年齢がちがう子ども同士のかわりを大事にしています。周りの人々に対する親しみを深め、集団の中で自己主張したり、人の立場を考えながら行動できるようにしていきます。



### 決まりのある活動の体験

決まりは単なる行動の制限や拘束ではなく、遊びを発展させるものとして大切です。決まりがあるから遊びは進行しやすく、みんなに分かりやすくなるということを知ります。子どもたちが場所の制限・時間の制限に気付くように遊びに工夫し、興味・関心を持たせています。それらに制限された中で遊ぶことで、子どもたちは更に新しい決まりをつくり、遊びが深まっています。

### 言葉について

経験したことを順を追って言葉で伝えようとする姿や、子どもたちの気持ちを受けとめ、うまく表現することができなくてもゆっくりと聞いてあげる態勢をとり、言葉に対する感覚や表現力を養うことができるようにしていきます。

### 身体全体のコントロールが進む時期

取り組んでいく過程を楽しんだり出来た喜びを感じたりして、更に上の目標に向かって頑張ろうとします。

- 跳び箱
- 鉄棒
- マット
- 雲梯
- ボール投げ、蹴る、受ける

### 仲間同士という意識を育てる

大人との関わりより、子ども同士の関わりを持ちたがり、また、友だちと一緒に同じ目的に向かって意見・考えを交換し、それぞれに役割を持って遊びを進めようとします。些細な衝突は見られますが、できるだけ自分たちで解決することができるよう、保育者は1歩下がって見守っています。